

【論文掲載：リハビリテーション科・薬剤部】

高齢大腿骨近位部骨折術後患者の退院時歩行自立に「抗コリン薬負荷」が関連

当院リハビリテーション科・薬剤部、秋吉整形外科（福岡市）、星城大学（東海市）からなる研究チームは、大腿骨近位部骨折で手術を受けた65歳以上の患者273例を対象に、入院時の「総抗コリン薬負荷（Total ACB）」と退院時歩行自立度の関連を後方視的に検証しました。Total ACBが高い患者ほど退院時に身体的介助を要する可能性が高いことが示され、理学療法士によるハイリスク症例の早期把握や重点的介入、薬剤師による処方介入等の薬学的支援の議論を後押しする知見となりました。本研究は国際学術誌 *Archives of Gerontology and Geriatrics Plus* に掲載されました（DOI: 10.1016/j.aggp.2025.100223）。

■要点

- ・入院時のTotal ACBが1点増えるごとに、退院時に身体介助を要するオッズが上昇（調整後OR 1.21～1.23）しました。
- ・探索的サブグループ解析では、75–84歳群でAUC 0.79と良好な識別能でした。
- ・観察研究であるため因果は断定できず、外部妥当性や実臨床での有用性、介入の効果検証が今後の課題といえます。

■背景

高齢者の大腿骨近位部骨折は手術と早期リハビリを要し、退院時の歩行自立はその後の生活や転帰を大きく左右します。一方で多剤併用が増える高齢者では、抗コリン薬の累積（Total ACB）が転倒・せん妄・認知機能低下などに関連することが知られています。国内では日本老年薬学会が公開している我が国の処方実態を反映した「日本版抗コリン薬リスクスケール（JARS）」により、Total ACBの定量化が可能です。これまで、Total ACBとリハビリテーション結果との関連を調べた研究はわずかにありましたが、その多くは医療体制の異なる海外で実施されたもので、急性期の退院時「歩行能力」に焦点を当てた検討はありませんでした。本研究は、わが国の医療体制に合わせて開発されたJARSを用い、急性期退院時の歩行自立との関連を検証した国内初の報告です。

■研究デザイン

当院単施設の後方視的コホート研究です。2017年4月～2023年8月に手術を受けた患者273例（年齢中央値87歳、女性78.8%）を解析対象としました。主要アウトカムは退院時FAC（Functional Ambulation Categories：歩行自立度を6段階〔0–5〕で評価）で、FAC $\leq$ 2を「身体介助群」、FAC $\geq$ 3を「監視または自立群」と二分しました。説明変数にTotal ACBを置き、年齢、血清アルブミン、転子部骨折、受傷前の歩行補助具使用、抗認知症薬使用で調整した多変量ロジスティック回帰を実施。ROC解析で識別能を評価し、年齢層別（65–74、75–84、 $\geq$ 85歳）で探索的解析を行いました。

■主な結果

- ・退院時の身体介助群（FAC $\leq$ 2）は149例（54.6%）。

・ Total ACB は $FAC \leq 2$ と有意に関連 (OR 1.22, 95%CI 1.05–1.41)。性別・体格・入院日数などを加えた感度分析でも、有意性はおおむね一貫 (調整 OR 1.21–1.23)。
・ 全体の AUC は 0.59 だが、75–84 歳群では AUC 0.79、カットオフ 2 で感度 65.6%・特異度 77.1%。一方、85 歳以上では AUC 0.55 と限定的。

■臨床的含意

入院時の Total ACB は、退院時の歩行能力低下リスクを示す追加的な手がかりとなり得ます。多職種で早期に共有し、薬剤調整、理学療法計画、家族・施設との退院調整に活用できる可能性があります。なお、抗コリン薬は消化管疾患治療薬、鎮痛薬、睡眠薬、抗うつ薬、過活動膀胱治療薬など多岐にわたる疾患の治療薬として用いられるため、画一的な減薬は避け、症状コントロールと副作用のバランスを個別に検討し、必要に応じて非抗コリン薬や非薬物療法への置換を考慮することが重要です。

■限界と今後の課題

本研究は過去データを用いた観察研究のため、年齢ごとの違いは傾向を示す段階で、偶然の影響もありえます。今後は、他施設や他地域での再現性、さらに実際の診療の流れの中で、高リスク患者の見逃し減少や支援の効率化の有用性を検証する必要があります。あわせて、減薬や処方変更といった具体的な対策が、本当に歩行自立につながるのかを検証する研究も求められます。

■論文情報

論文名：*Association between gait performance at discharge and total anticholinergic burden in elderly patients after hip fracture surgery: A single-center retrospective cohort study*

著者： Daisuke Komiya, Hirofumi Takeya, Kenta Minakami, Katsuki Egoh, Kohji Iwai, Keisuke Hatase

誌名：*Archives of Gerontology and Geriatrics Plus* (オープンアクセス)

掲載：2025 年 10 月 15 日オンライン公開

DOI：10.1016/j.aggp.2025.100223

倫理：大牟田市立病院倫理審査委員会承認 (No.2324)

■お問い合わせ

大牟田市立病院 リハビリテーション科 (責任著者：小宮 大輔)